

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習指導を行う。 ・「聞き取る力」「読み取る力」「書く力」「要約する力」「説明する力」を高める学習指導を行う。 ・生徒の主体的・協働的な学習を重視し、学習内容の深まりと広がり追究する学習指導を行う。 <p>②教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路を見据えた「学びのコンセプト」に基づく教育課程を実践する。 ・これまでの福祉教養コースで取り組んできた成果を学校全体の特色とする教育課程を編成する。 	<p>①授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的な学習をととして学習の深まりと広がり追究する。 ・すべての教科においてアウトプットする力を育成する。 ・読書の時間の充実を図る。 <p>②教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学年数学においてティームティーチングの成果を出す。 ・生徒の主体性を引き出しながら、福祉的活動も力強く推進する。 	<p>①不断の授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科内での統一感のある指導方針を持つ。 ・家庭学習課題と確認テスト等を実施し学習習慣を定着させ、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・小論文などを書く機会を増やす。 ・資料を読み取り、要約したり他者へ説明したりする機会を増やす。 ・グループワーク・ペアワークによる協議や教え合いの機会を増やす。 ・読書の時間の充実に向けたクラス単位で貸し出せる本の整備をする。 <p>②教育課程の改編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏期講座の内容を充実させるとともに、生徒の参加を促す。 ・英語検定、漢字検定、等への積極的受検を促す。 ・特学クラスにおいてICT活用型の学習教材のバージョンアップと新たに「朝チャレ」を開始する。 	<p>①・生徒による授業評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科会における教員相互の評価 ・本校主催の地域教育懇談会での授業参観における地域の方々の評価 ・生徒の発表や小論文等の成果物の達成状況 ・読書の時間に係るアンケートと生徒の変容 <p>②・夏期講座の内容の充実度と参加者数が昨年度比10%増えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定試験の受験者数の昨年度比 ・定期テストや模擬試験による1学年数学の学習定着率の昨年度比 ・特学クラスの学習評価の平均値が他のクラスと比較して10%高いか。模擬試験結果が昨年より伸びたか。 ・「福祉教育の全体計画」に基づく福祉活動実践件数の昨年度比 	<p>①・授業改善プロジェクトチームを立ち上げ、ICTの活用による視覚的に分かりやすくテンポよい授業を展開する工夫とグループ活動により「要約する力」「説明する力」等の新たな学力の育成の工夫をテーマに研究授業を行い、教員一人ひとりの授業に取入れ授業の工夫を行った。</p> <p>②・夏期講座の種類が増え、参加者数は昨年度294名に対し今年度324名とほぼ10%増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定受験者数は昨年41名に対し、今年49名と増えた。 ・英語検定受験者数は昨年19名に対し、今年43名と増えた。 ・1年特学クラスの数学Aの評定平均値は他の5クラスのそれに比べ10%高い。 ・1年特学クラスのコミュニケーション英語の評定平均値は他の5クラスのそれに比べ3%高い。 	<p>①・全教員としての取組みが一定の効果を得られたが、継続していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員独自の授業改善によるよい取組みもあるので、他の教員への波及を図る。 ・小論文については平成31年度より国語表現を必修とし、書く機会を増やすことが期待できる。 <p>②特学クラスの生徒を対象として、昨年度途中より朝の課題学習の試行を始め、今年度は更に「朝チャレ」として再出発。1年は国・数・英の3教科、2年は数・英の2教科について、学力強化を図っている。少しずつ成果は上がっているが、生徒のモチベーションが期待に届いていない。次年度は、生徒のニーズや関心に合った課題を用意し、さらなる学力の向上を図っていききたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取り組みを行って生徒の力を引き出そうとしていることがよく分かった。継続してほしい。 ・進路学習に向け色々な仕掛けを行っていることがよく分かった。先生方の構えが生徒に分かる。進路意識が変わるのではないかな。 ・就職が減少して、福祉関係の職に就く生徒少なくなったことについては、人材難にあえている地域作業所の立場からは残念である。平成32年度から定時制が来るということで、地域作業所が昼間の職場となってくれることを期待していききたい。 	<p>①・研究授業後の管理職による授業観察にてICTの活用かまたはグループ活動を取り入れた授業展開を全教職員に義務づけ、一人ひとりの授業改善の推進につながり効果を上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、工夫ある授業実践の発表は今年度実施することができなかったが、授業手法の共有化を図ることは各々の教員の授業力向上への意識を触発する効果が大きいため次年度は実施していきたい。 ・生徒の充実感の向上、取組み態度の改善を目指せる授業の工夫を図って行きたい。 ・次年度より「国語表現」を必修としたので学年全体での書く力の育成につながると期待している。 ・教科をととしての図書室の利用など読書の機会を増やしていく。 <p>②夏期講座の内容の充実、各種検定試験への積極的参加の指導など学習に向けての意識の向上が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特学クラスについても「朝チャレ」の実施により、日々の学習習慣の向上が見られるようになってきている。 ・今年度のICT活用型の学習教材のバージョンアップについては、特学クラスだけでなく学年全体での導入を検討していく予定である。 	<p>■授業改善プロジェクトチームによる取組みが授業改善に向け効果を上げることができているので、単年度にするのではなく次年度以降も引き続き行っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、工夫ある授業実践の発表は今年度実施することができなかったが、授業手法の共有化を図ることは各々の教員の授業力向上への意識を触発する効果が大きいため次年度は実施していきたい。 ・生徒の充実感の向上、取組み態度の改善を目指せる授業の工夫を図って行きたい。 ・次年度より「国語表現」を必修としたので学年全体での書く力の育成につながると期待している。 ・教科をととしての図書室の利用など読書の機会を増やしていく。 <p>■生徒のモチベーションの持続が課題となっているので、課題内容の精査・意欲喚起への取組みの工夫などを行い持続可能な状態に持っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用型の学習教材については、特学クラスだけでなく学年全体での導入を検討していく予定である。

2	生徒指導・支援	<p>①規範意識を醸成するとともに、責任感や連帯感の涵養を図る。</p> <p>②自己管理能力を高め、他者を理解する心を育む。</p> <p>③教育相談体制の一層の強化を図る。</p>	<p>①部活動や生徒会行事を活性化し、責任感の向上や生徒同士の連帯を図るとともにルールを守る大切さを学ばせる。</p> <p>②生徒の人間関係の状況把握をし、未然防止につとめる体制を強化する。</p> <p>③早期発見につとめ、重篤な問題に至らない職員体制を継続する。</p>	<p>①昨年受賞した「かながわドリーム大賞（入部率急増）」を加速すべく、新入生のオリエンテーション等の機会に生徒同士で部活動に意義を訴え、入部率の向上をめざす。</p> <p>②日々の丁寧な生徒状況の把握と「いじめ防止アンケート」を実施し活用する。</p> <p>③H27年度策定した「校内教育相談体制」に基づく適切かつ迅速な対応に努める。</p>	<p>①部活動や行事に係る生徒アンケートの実施で生徒の充実感を確認する。</p> <p>②SNS関連の指導件数と昨年度比</p> <p>③課題の解決に至った件数と昨年度比</p>	<p>①部活動、行事に関するアンケート結果は大多数が満足している結果であった。</p> <p>②指導件数は1件（昨年は3件）</p> <p>③スクールカウンセラー（SC）に繋げた件数は13件（昨年は21件）、スクールソーシャルワーカー（SSW）は2件だった。</p>	<p>①活動や行事を、より生徒が主体的に運営できるように支援する必要がある。</p> <p>②携帯電話教室の実施や全校集会、学年集会等で注意喚起を促し、未然防止に努める。</p> <p>③様々な課題を抱えた生徒たちの情報を共有し、色々な立場の教職員が支援に関われる体制を構築する。</p>	<p>・頑張っている部活動については、同窓会としても応援したい。大会の日程などを早めに教えていただきたい。</p> <p>・部活動の加入状況についてはもう少し加入を促進できるとよいのだが。</p> <p>・丁寧な指導体制をできていることがよく分かった。継続してほしい。</p>	<p>①部活動への加入状況は上昇してきているが、途中での退部者が多い部活動がある。</p> <p>②SNSを介しての人間関係のもつれなどの被害は減少してきているが、重大なケースになってから明らかになる場合がある。</p> <p>③教育相談関係では迅速かつ適切な対応が取られてきている。</p>	<p>■引き続き部活動への加入を勧め、生徒の学校生活の充実を図るとともに精神的問題を抱えた生徒に対しての部活動での支援体制も確立していきたい。</p> <p>■引き続き機会を設けて意識づけを行っていく。</p> <p>■現在の教育相談体制を確固たるものとして、教員間の情報共有と、生徒一人ひとりの課題の早期発見に努めるとともに外部機関との連携を一層充実させていく。</p>
3	進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの進路実現を果たす。</p> <p>②大学・短大進学における一般受験希望者数の増加を図る。</p>	<p>①上級学校見学や働くことに関する学習の機会を増やし、生徒のキャリアプランニングを支援する。</p> <p>②模擬試験や学力テストの機会を増やし、生徒の進学力を高める。</p>	<p>①上級学校見学や職業体験の参加者数を増やすとともに昨年追加した学習・進路ナビの学習ワークシートを活用した意識の定着を図る。</p> <p>②大学受験への意識付けができる業者模擬試験を導入し、一般受験への挑戦者数増加を加速する。</p>	<p>①上級学校見学や職業体験の参加者数が昨年度比10%増えたか。</p> <p>②模擬試験受験者、一般入試受験者、センター入試受験者がそれぞれ昨年度比10%を超えたか。</p>	<p>①インターンシップや就業体験の参加者数は42名にとどまり、昨年昨年の47名に及ばなかった。</p> <p>②3年模試の受験者は昨年9名に対し今年12名、センター入試受験者が昨年10名に対し今年15名と、それぞれ10%以上増加した。</p>	<p>①夏季休業期間の短縮の影響もあり、校外での就業体験の機会が減る傾向にある。外部機関との連携を密にし、生徒の参加促進を図る。</p> <p>②模試の受験者、センター試験の受験者ともに増加傾向にあるが、ガイダンス等を通じて大学受験への更なる意識付けを図る。</p>	<p>・大学や短大への進学率が上がっていることがよく分かった。職業を意識しながら進路先を選択するようになってほしい。</p>	<p>①大学への進学希望者の増加にともない、学校見学は増加している。就業を意識した進路先決定を促すためにもインターンシップなどへの参加を促していきたい。</p> <p>②粘り強く大学・短大進学における一般受験希望者数の増加を図る。</p>	<p>■引き続き、上級学校見学や職業体験を促し、学習・進路ナビを活用した計画的な支援を行う。</p> <p>■大学進学希望者には実力判定テストを確実に受験させるとともに丁寧な大学受験へのレクチャーを行う。</p>
4	地域等との協働	<p>①人とつながり福祉の心を涵養するとともに、社会とかかわる力を育成する。</p> <p>②地域の教育力を活用する。</p>	<p>①「福祉教育の全体計画」に基づき、生徒が地域から必要とされると実感できる環境やつながりを創出する。</p>	<p>①地域のボランティア募集や地域行事の情報を職員間で共有し、生徒が参加する機会を増やす。</p>	<p>①福祉活動への参加者数と昨年度比</p>	<p>①福祉活動参加者数は昨年度並みであった。平塚市の「ニュースポーツ体験会」「パラスポーツフェスタ」等、新たな分野のボランティアへの参加があった。</p>	<p>①「ともに生きる社会かながわ憲章」を実践すべく、パラスポーツなどの理解を深め、質的な深みを図る。</p>	<p>・「わいわいピック」では障がい者と健常者が一緒に楽しもうという立場でいただけている。生徒が楽しんで考え、やってもらっていることが非常によい。手を差し伸べるのではなく一緒に楽しんでほしい。</p>	<p>①地域のボランティア、地域行事への要請など非常に多くなっている。地域作業所との連携など今までの取り組みだけでなく、平塚市からの依頼もあり生徒への参加募集と意欲の喚起をしていきたい。</p>	<p>■引き続き福祉教育の他者理解の理念を育む取組を具現化し、高浜高校らしい生徒像を再認識し、その育成をめざす。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①いのちを尊重する教育を推進する。</p> <p>②防災教育、防災体制を強化する。</p> <p>③交通安全教育を推進する。</p>	<p>①健やかな身体と自己肯定感を育み、生きることの尊さを学ぶ機会を増やす。</p> <p>②地域と連携した防災訓練を実施する。</p> <p>③自転車事故の未然防止に取り組む。</p>	<p>①毎週定期的に教育相談担当者会議をおこない、生徒の情報共有につとめるとともに適切な講演会等を実施する。</p> <p>②地域と連携した代表生徒による宿泊訓練を実施する。</p> <p>③隔年で実施をしているスケアードストレイトを実施する。</p>	<p>①生徒の情報共有が十分にでき、適切な支援ができたか。</p> <p>②避難地域住民への対応を想定した訓練が実施できたか。</p> <p>③登下校の自転車事故件数の昨年度比</p>	<p>①各学年の教育相談コーディネーターを中心に、情報を共有し、適切な支援ができた。</p> <p>②代表生徒による宿泊訓練、DIG等の訓練ができた。</p> <p>③スケアードストレイトを実施し、自転車事故件数を減少させた。</p>	<p>①支援や配慮が必要な生徒の継続的な教育相談を支援する声掛けと見守りを行う。</p> <p>②引き続き、充実した内容の訓練を行っていく。</p> <p>③引き続き、交通安全教育を徹底する。交通ルール、マナーの遵守を行う。</p>	<p>・中学校でもスケアードストレイトを行ったところ保護者から、子どもが以前事故にあってPTSDになったのにあのようなものを見せてどう考えているのかという抗議があった。そのような生徒への配慮も必要かと思う。</p>	<p>①定期的な教育相談担当者会議の実施により教職員間の情報共有化が図れ、適切で迅速な対応が図れた。</p> <p>②DIGに加え宿泊訓練を実施し、その中で喫食を行った。</p> <p>③事故件数減となっているが、交通マナーの不十分な面があるため、継続的な指導が必要がある。</p>	<p>■引き続き、現在の生徒情報の共有体制を維持し、安心で安全な学校の環境整備を図っていく。</p> <p>■既存の訓練内容を検討し、学校全体での防災意識の向上を図る。</p> <p>■特に自転車マナーの啓発活動については生徒主体の活動も取り入れていきたい。</p>